

県中学春季ハンド

ハンドボールの第2回大伸杯第51回県中学生春季選手権最終日は30日、県総合運動公園体育館で行われ、女子決勝は安慶田が仲西を32-14で破り、33年ぶり6度目の優勝を飾った。男子は神森が浦西に28-24で競り勝ち、4年ぶり18度目の頂点に立った。

女子の安慶田は粘り強い守備からの速攻を武器に序盤から得点を重ね、前半を17-7とリード。走力は後半も落ちずに32-14と18点差をつけて快勝した。

男子の神森は前線から積極的にプレスをかけて浦西の攻撃の芽を摘み14-10で折り返した。攻めはサイドと中央を巧みに使い分けながら一度も追いつかれることなく28-24で下した。

3位決定戦女子は浦西が浦添を21-14、男子は昭葉付が沖縄東に31-29で勝った。

【女子】
▽3位決定戦
浦西 21(13-8)14 浦添
▽決勝
安慶田 32(17-7)14 仲西
【男子】
▽3位決定戦
昭葉付 31(18-13)29 沖縄東
▽決勝
神森 28(14-14)24 浦西

▽優秀選手
【女子】鳥袋友(安慶田) 中村亜由紀(同) 仲宗根果歩(同) 金城羽奈(仲西) 西原琉美花(同) 赤嶺桜佳(浦西) 野原瑞和子(浦添)

【男子】豊平琉翔(神森) 小波津和史(同) 古波蔵来希(同) 新垣陽都(浦西) 宮城琉空(同) 新垣孝幸(昭葉付) 久田瑛翔(沖縄東)



※女子決勝 安慶田-仲西 後半、安慶田の中村亜由紀がシュートを放つ=県総合運動公園体育館(名護大輝撮影) ※33年ぶり6度目の優勝を飾った女子の安慶田

安慶田 33年ぶりV

武器の走力攻守で圧倒

ハイライト

女子

女子決勝は走力で勝る安慶田が攻守で仲西を圧倒し、32-14の大差で33年ぶりに頂点をつかみとった。

序盤の攻勢をけん引したのがLW仲宗根果歩主将。仲西の守備が整う前に一気に前線

に駆け上がり速攻から得点を重ねた。

仲宗根がマークされても、チーム最多9得点のLB中村亜由紀や、左膝の大けがから復帰して7得点したピボット内間心球らが中央を崩した。

GK鳥袋友は一对一や7発スローのピンチで好セーブを連発し、主導権を渡さなかった。

中学から競技を始めた選手がほとんど。先輩が少なかったため主力は1年生の頃から

出場し、2年がかりで県頂点に上り詰めた。仲宗根主将は「ミスをなくし、シュートまで持っていく練習の成果が出た。攻めの姿勢を崩さなかったことがよかった」と胸を張った。

厳しいリハビリを乗り越えた内間は「幸せです」と喜びをかみしめた。中体連に向け「もっといいプレーができるよう走り込みから頑張りたい」と語った。(溝井洋輔)



神森、18度目V

積極的な守備光る

男子

男子は神森が浦西の追い上げをかき、28-24で4年ぶり18度目の頂点に立った。3月下旬の全国大会初戦で負けた悔しさをバネに仕切り直し、新年度一つ目の県タイトルを取った。

神森は仲里立吾らが浦西エースに激しいプレスをかけるなど、積極的な守備が光った。GK古波蔵来希は160センチと上背はないものの、果敢に前に出てピンチを再三防ぎ、素早い速攻に

つなげた。

攻撃はチーム最多11得点したLB豊平琉翔主将が中心。流れるようにパスを回し、守備との距離が空くと177センチの長身で左利きのRB小波津和史が豪快なシュートを決めた。

後半残り10分で3点差に追い上げられても豊平が軽快なステップから連続得点し引き離した。ピボットで攻撃でも起点となった仲里は「全国で負けた悔しさは絶対に忘れない」と話し、全国制覇を見据え、チーム力の強化を誓った。



4年ぶり18度目優勝の男子神森



男子決勝 神森-浦西 前半、神森の小波津和史が6点目のシュートを決める